



ユース版

# 附属中学校開設10周年

## 今秋、記念式典を挙行

### 附属中副校長 一色保典先生談話

附属中学校は、平成24年度に開校以来、今年度で10周年を迎え、今秋記念式典を予定している。附属中学校関係者にご寄稿をいただいた。

「11月5日(土)の10周年記念式典というこの瞬間に立ち会うことができることに感謝しながら、現在式典の準備を進めているところです。式典のコンセプトは、「これまでの10年、これからの10年」。当日は本校卒業生3名をお招きし、ご講演を頂きながらこれまでの10年を振り返ります。そして、「これからの屋代附属中の姿」を考える大討論会、そして最後は、在校生による記念合唱を行います。形あるものとして残すだけでなく、記念合唱のように、「形」は心の中けれど、共に学んだ証が一人一人の心の中に刻まれるような記憶に残る記念式典にしたいと思っています。

これから先の10年を生き抜いていく子供たちには、生涯学び続けられるスキルとエネルギーが必要になります。それは、一人では到底身に付きません。友と切磋琢磨しながらとことん探究的に学び、学ぶことの楽しさを肌で感じ取り、どんな困難も乗り越えていけるようになって、力強く生き抜いてほしいと、心から願っています。」

第33代校長先生

### 馬場 正一 先生



松代中出、高校第36回のご卒業。東北大学理学部数学科に学び、同大学院で解析学分野の偏微分方程式論で修士号。松代高校を振り出しに県教育界に入られ、須坂高・長野高・総合教育センター専門主事・(株)ベネッセ・教学指導課(現・学びの改革課)主任指導主事、松本深志高校教頭等を歴任され、今春着任された。

### クローズアップ

○「着任の所感をお聞かせ下さい。」  
私は、本校同窓生で高校36年生です。高校教員として採用され、いつかは母校でも勤務できればと考えていました。が、来年度創立100周年を迎える、このような節目の年に勤務できる機会を得るの引き締まる思いです。校長として、全力を尽くしたいと考えていますので、よろしくお願います。

○「数学の先生でいらっしゃるのですが、数学の面白さはどんな所にありますか。」  
私は「数学が面白い」と感じたのは、微分を考えたときの「できる限り小さく切り分ける」という発想です。この考え方を「直線」として複雑な曲線を「直線」で考えていくと、「直線の傾き」を使って考えることが可能になります。フランスの数学者 アンリ・ポアンカレ(1854-1912)は、「数学とは異なるものを同じ

と見なす技術である。」と言ったそうです。新型コロナウイルス感染症の感染予測のような現実の問題でも、「数学モデル」として数式で表して数学の問題として「解く」ことが可能です。数学は、自然界や社会で起きている現象の本質を表現し、理論的に説明する上でとても「役立つ」学問なのです。

○「趣味などは、いかがですか。」  
趣味とは言いませんが、県教委でICT機器整備を担当したことがあるため、PC端末をいくつ所有して使っています。

○「生徒への期待について、お話を伺います。」  
全体として落ち着いた雰囲気の中、生徒たちは「質実剛健」「文武両道」の校風を体現すべく、日々勉学に励んでおり、生徒会活動にも積極的に参加し、その姿は清々しくもあり、頼もしくもあります。人生の中でも、学生時代からできることが、いくつあ

### 教育界から

#### 「自分の力を、内から外へ！」 —附属中学校の次の10年に期待

信州大学教授・教育学部長 村松 浩幸



創立10年おめでとうございませう。過日も屋高SSD運営委員として訪問した際に、中学校の授業も拝見しました。どの授業でも一人一台端末のPCを活用し、グループで協同してスライドを作成したり、議論を活用したりするなどの、現在求められている主体的対話的協働的な学びが展開されていました。仕事柄、中学校の授業参観や、様子を聞くことが多いのですが、お世辞抜きで附属中の学びの姿はトツクラスと言えます。

授業の様子から、生徒さんが優秀であると共に、先生方が生徒への期待に応えるべく、様々な工夫されているのを感じます。昨年度も教育学部のセミナーにおいて、附属中の先生方のICT活用の様子を紹介いただき、感心しました。また、中高一貫校の中には、中学・高校間で交流がないという話を聞くこともありますが、附属中では、高校と生徒同士、先生同士の交流がなされている点も素晴らしいです。

個人的にも、科学の甲子園ジュニアや大学主催のSTEM教育プログラムに参加する生徒さんら

### 保護者代表

#### 文武両道のすすめ

長野松代総合病院・スポーツ整形外科部長 松永 大吾



子ども4人が屋代高校へ付属中学でお世話になった縁(2名は現在も在学中)で、貴重な執筆の機会をいただきました。柔道で日々成長していく子どもをみていて、自分自身が弱いながらも大学までトップ選手を目指して柔道で打ち込んだ身としては頼もしい限りです。

私事で恐縮ですが、柔道に打ち込んだおかげで現在医師として役に立っていることは、「運動強度が高いので短時間で効率よく体力がついた」「反復動作の徹底で一流の技を作る文化が外科学としてのスキルアップに応用できた」と多様な技が認められている競技なので工夫次第で難しい手術を成功させる知恵が身についた」「礼儀が身についた」ということだと思っています。

価値観の多様化や自由と権利といった声が自由原理主義者や自分至上主義者などに悪用され、対照的に論理的思考や文武両道といった伝統的価値観が失われつつあるのが現代社会ではないかと、私は憂えています。国会議員ですら反知性主義やポピュリズムに傾倒して、有権者を扇動しています。これでは却って差別や偏見や分断が加速しかねません。

「偏差値などの古典的な評価基準では埋もれてしまう特殊な才能の発掘」が世界的トレンドとなりつつありますが、それと同じくらい大切なのが、「歴史と伝統ある進学校で心技体を磨き、優れた知性と教養で社会の発展に貢献できる人材の育成」だと感じます。文武両道

### 卒業生から

#### 10年を顧みる —今に生きる「科学リテラシー」

青山学院大学3年 橋詰 ゆな



はしずめゆな氏 高72回のご卒業。佐久市立中佐都小出、高校時代は放送同好会に所属。3年時で生徒会長。現在都内の大学に新幹線通学業は、「コロナ感染対応」によりオンラインで行われた。

附属中学校開設10周年、誠にありがとうございます。私には、附属中学校3年生として入学をしました。憧れの附属中学校に入学できた喜び、これからの学生生活への不安や期待など様々な気持ちで、入学式を迎えたことを覚えています。3年間の附属中学校生活で、印象に残っているのは、3年生の科学リテラシーの時間に取り組んだ

「卒業研究」です。私は「黄金比を使って自撮りを可愛く撮る方法」というテーマで研究をしました。理系科目が苦手だった私にとって最初は、「しっかり研究ができるのだろうか」と不安でいっぱいだったのですが、研究テーマが自由だったので、自分の興味のあるテーマを設定し、夢中で取り組むことが出来ました。放課後や家に帰ってから

### 連載・私の附属中時代(その十一)

#### 中学2年時の出来事が転機に

九州大学医学科1年 松永 元達 (高74回)



中野市立中野小学校出、高校第74回の卒業。附属中・高校の6年間、柔道部で精進を重ね、高校個人戦でベスト8まで進出された。九州大学でも柔道部に入部。部員数は20名で、週5日、一日3時間の練習、「皆がやる気に溢れていて、練習したり遊んだり楽しい毎日です。」

附属中に入学する時は、学校が家からかなり遠く、知り合いもいない中で不安がありました。しかし、いざ学校が始まってみるとそんな不安を忘れるくらい、目まぐるしい日々が始まりました。小学校のテストで自信をつけ、合格したことで天狗になっていた私は、最初のテストで鼻柱をへし折られました。上位に食い込むどころか、平均点を下回るという事態で、テストの見直しそつちのことで、どうやって親からテストを隠すかかなり思案していた記憶があります。負けず嫌いだっただけでもあって、附属中時代は将来を見据えてというより、同級生に負けたくないという思いで、勉強に励んでいました。

私には、旧帝国大学の医学科に進学したいという夢があり、今無事夢をかかなれたのは、附属中・高校と共に過ごしたことが、助け合った同級生の存在が非常に大きかったと思います。柔道部に所属していたのですが、そこで培った精神や体力も大変役に立ち、柔道部の先生方にはとても感謝しています。

◆  
それまで、内気であきらめの早かった私ですが、それからは積極的に人と話し、つらくても努力するようにしています。幸いにも、周りはそんな私の変化を受け入れてくれて、高校生活は、まさに私の理想通り、楽しく有意義なものになったと思います。勉強や部活動から人との話し方や些細な気遣いに至るまで、中学時代というのは、そういった努力をし始める大切な時期であり、私にとっては、生き方を決定づける出来事が起きた、忘れられない思い出です。

続けたり、朝早く学校に来て撮影を行ったりと、とてもハードでしたから、それだけ時間を費やしたからこそ良い研究になったのではないかと感じています。また、研究期間は、職員室に何度も通い、分析を深めていきました。結果として、高校生と合同であんずホールで行われた発表会でお話をさせていただいたり、この研究を学外の人に発表する機会をいただいたり、とても嬉しかったです。このように、

研究活動ができたのは、とても貴重なことであり、現在の大学のゼミ活動でも生きています。屋代附属中学校で過ごした日々は、どれもかけがえのない思い出で、入学できてよかったと心から思っています。

最後に、このような機会をくださった赤地会長をはじめとする同窓会の皆様へ感謝いたします。これからも屋代附属中学校の「伝統」が引き継がれ、刻ま

# 新たに高校280名、附属中80名が入学 令和4年度始まる

令和4年度入学式は、去る4月6日(水)、「コロナ」による感染症対応による参列者制限が一部緩和されて、挙行された。入学式が剣持春人君が、それぞれ宣誓を行った【写真】。校長先生の式辞、来賓の祝辞(いずれも要旨)は次のとおり。

**馬場正一・校長先生 式辞**

「会報ジョージ・ボリアという数学者は、問題解決の過程を、4つの段階(問題の理解、計画の立案、確実な実行、結果を受けての改善)に整理している。

新入生の皆さんには、本校に集う多様な仲間たちと、ともに学び、議論を交わし、その中で新しい気づきを得る、そんな姿勢を大切にしてほしい。今の時代は、自分の考えを相手に伝えつつ、協力して何かを成し遂げていく力が何よりも必要とされている。議論を交わす中で問題解決を図り、そして一緒に何かを作り上げていく、そんな姿を期待している。」

**P.T.A・小林高広会長 祝辞**

「自分も36年前入学し、『質実剛健』『文武両道』の校風を学んだ。資質豊かな仲間・先輩、熱意溢れる先生から大いに学び、自分の頭で考え、行動する大切さを学んだ。

今は、インターネットによって調べれば何でもわかる時代になったが、知っている

こと自体はあまり価値を生まないう。自らの五感を養い、たくさん経験して、体感して、感性を磨いてほしい。」

**同窓会・赤地憲一会長 祝辞**

「未知との遭遇が当たり前の、予測が困難な時代にあつて、自

1年前、初めて授業公開に参加させていただいた際、息子が「この学校の授業、凄く楽しい」と目をキラキラさせて言っていました。また、私も、すれ違う生徒の皆さんが自ら挨拶をしていく、そして先生方までもが、自ら挨拶をくださり、とても気持ちの良い学校だと感じ、この様な学校で学ぶことができれば、どんなにか素晴らしいと思えました。

受験に向けての勉強も、仲間と励ましあい、楽しく前向きに進めていたと、感じています。受験を通して素晴らしい仲間に出会えた事は、息子の財産だと思えます。ご縁があり、無事に入学会員になりました。2カ月余りが経過致しました。電車通学、制服、班活、お弁当、何もかもが初めてのことで、親子共々緊張したスタートでした。今まで2回ほど授業を参観す

分で考え、求め、行動し、遅く生き抜く力を養ってほしいと期待します。幸い屋代高校は、普通科生と理数科生、そして内進生が学び、お互いが切磋琢磨する環境にあります。仲間からも学び、楽しむ中で学びあえる学園であることを願っています。」

**附属中1学年P.T.A会長 藤井 宣生**  
(上田市立南小)

お陰様で息子は毎日楽しく登校しております。駅で見送る背中も頼もしく感じます。屋代高校附属中を通して、息子はどのような道を築くのか楽しみます。入学前に副校長先生より、「降啄同時」のお話を伺う機会がありました。子供の成長を邪魔しないよう、程よい距離で親守り続けたいと思っていました。親子共々成長させていたただいてお喜びです。感謝申し上げます。

**柳田体験学習について**

総合的な学習の時間 若林 久人 先生

附属中1期生が2年の時に始まったおぼすて柳田体験学習は、10回目を迎えた。この体験学習は、同窓会や柳田管理の名月会、千曲市の支援もあり、柳田オーナー制度を活用して始まった。

今年度1回目(5月28日(土))に行われ、附属中2年12名と保護者4名、顧問3名の計19名で田植え体験を行った。当日は五月晴れの晴天に加え、おぼすての風光明媚な景色が眼下に広がり、清々しい気分の中で田植え体験となった。姨捨駅に降り立った生徒は、「はやく田植えがしたいです」とやる気満々で、いざ田植えが始まると熱中して作業に取り組み、2時間があつたという間に過ぎた。足を泥だらけにして田んぼに入り、稲を植える体験を通じて、農作業の楽しさと苦労を味わえた貴重な経験となった。

現在、柳田での活動は、附属中だけでなく、高校に進学した先輩も継続的に活動しており、柳田サポーターとして様々なイベントを企画している。当日も高校2年生がクイズ大会等で会場を盛り上げていた。

このおぼすて柳田の活動を千曲市文化財を守る活動と生徒が主体的に学びを深める活動として大切にしていきたい。

**フィオナ先生の懸賞パズル**  
Dr Fiona Ninnis

フィオナ先生は平成22~27年度の5年間、屋代高・附属中で英語を教えられ、平成28年(2016年)にオーストラリアに帰国。現在シドニー郊外で英語教師をされる。

○ 次の文を数式に直して、解を求めよ。

A man and his wife worked in a catering business. One Monday morning they received a large order for cabbage and apple salads. However, when they looked at their supplies of apples and cabbages they realised that they would need to buy more ingredients in order to complete this order. The man raced off to the shops without stopping at the bank on the way. He knew that he had two thousand yen in his wallet, and he knew that that would be enough for what he wanted to buy. That day he bought six apples and seven cabbages and spent one thousand four hundred and fifty two yen.

However, when he got home, he discovered that one of their farming neighbors had dropped in some fresh cabbages. This meant that he now had too many cabbages. The next day he sold four of the cabbages that he had bought on Monday to his friend for the same price that he bought them for but bought five more apples. On Tuesday night he had three hundred and forty one yen left in his wallet. How much did he pay for the apples and cabbages?

【編集部註】  
The three best answers will be rewarded with a 5,000 yen book card each to solve the above puzzle by Fiona Sensei. The dead line will be Aug.19. Both junior and senior high school students can apply. Please visit the alumni office with your answer.(The office hour is from 1:30 p.m.to 5 p.m.)

## 『空腹こそ最強のクスリ』が40万部突破 養老孟司先生と対談の内科医 青木 厚 院長



更埴西中出、高校第42回のご卒業。福井医科大学卒業後、自治医科大学大学院で糖尿病を中心とした内分泌代謝、動脈硬化分野の「あおき内科さいたま糖尿病クリニック」院長のかたわら、メディア出演や雑誌等での対談、執筆等多数。ご尊父は、ハンドボール界大御所の青木崇先生。

○『プレジデント4月号』を拝見しました。先生「自身「プチ断食」により、舌癌を克服された」と伺いましたが、40歳の時に舌癌を患い、死の恐怖を味わいました。内

分泌代謝の臨床医として、これを全治させたことで、栄養代謝による、がん治療・予防をライフワークにしています。動脈硬化性疾患やがん再発予防により、患者さんの「より

### 人

よい明日のために」精進しています。

○「空腹こそ最高のクスリ」と言われますが、そのメカニズムを教えてください。

空腹は、体重や脂肪を減少させ、糖尿病、がん、心筋梗塞や狭心症などの予防に効果があります。一日3食摂り、前に食べたものを消化している間に、次の食べ物が入り込んでくることで、内臓は休むことなく働き続けなくてはなりません。当然内臓は疲弊してしまいます。

○具体的な臓器の働きにあわせて、教えてください。

肝臓や胃腸の働きが鈍くなりますと、栄養分をしっかりと吸収できなくなり、老廃物もきちんと排出されなくなり、腸内環境も悪化するため、免疫力が低下し、病気にかかりやすくなるという訳

です。これは、ノーベル賞の本庶佑博士の提唱した「オプジーボ療法」(元来ヒトの体内に備わっている免疫力を利用してガン細胞を攻撃)からヒントを頂いています。

○ところで、先生は、いつ頃から医師を目指されたのですか、高校時代のことなどお聞かせ下さい。

高校時代、医療に関心を持っていましたが、担任の先生から「2浪しても無理」と言われてしまい、東京理科大学(物理科)に進学しました。そこで医学部付属病院に勤務する医師の息子さんの家庭教師を依頼され、教えているうちに「これくらいのお子様で医学部を目指すのなら」と、その思いから、卒業後に医学部を受験したわけです。「人間は過程的存在」とアレキシス・カレルが言いましたが、学力もそういう面がありますね。

### 附属中学校

#### 新任先生の紹介

- ① これまでの勤務校 ② 大学での専門分野 ③ ご趣味等
- ④ 着任所感 ⑤ 附属中学生への期待

**1年A組 小林 厚志 先生**

① 松本市立清水中学校・天龍村立天龍中学校・上田市立丸子北中学校

② 国語教育、

③ スポーツ観戦

④ 物事に向かうエネルギーと探究心があり、日々元気をもらっています。

⑤ 仲間と高め合い、充実した6年間を過ごすことを期待しています。

**2年B組 荒井 俊亮 先生**

① 松本市立梓川中学校

② 英語

③ ドライブ、温泉巡り、映画鑑賞、愛犬と遊ぶ、たくさんあります!

④ 柔軟なアイデアを持った生徒が多いと感じています。声をかけてくれる生徒も多く、とても嬉しいです。

⑤ 様々なことにチャレンジできる学校だと思います。視野を広げ、仲間と共に学び

**3年A組 小田 佑弥 先生**

① 信大附属松本中一三郷中一長峰中

② 何でも屋

③ 我が子と一緒に過ごすこと

④ 何でも屋にお任せあれ!

⑤ 毎日のルーティーンが大切です。

**3年B組 村澤 蔵哉 先生**

① 上田高等学校

② 数学(解析学)

③ 旅行、ドライブ

④ 一昨年度より教科担任、副担任として中学に関わってきました。本年度は中3の担任として、高校へ向けてのサポートをさせていただきます。

⑤ 自分で問いや課題を見つけて解決する力を身につけてほしいと思います。

**1年B組 大平 栄吉 先生**

① 大町市立仁科台中学校・千

曲市立植生中学校・茅野市立東部中学校 ハンドボール

② 漫画を読むこと ネット ショッピング

③ 漫画で仕事ができると嬉しそうです!

④ 附属中の皆さん、理解力・思考力が高くて授業が楽しいです。

**2年A組 荒井 俊亮 先生**

① 松本市立梓川中学校

② 英語

③ ドライブ、温泉巡り、映画鑑賞、愛犬と遊ぶ、たくさんあります!

④ 柔軟なアイデアを持った生徒が多いと感じています。声をかけてくれる生徒も多く、とても嬉しいです。

⑤ 様々なことにチャレンジできる学校だと思います。視野を広げ、仲間と共に学び

**3年A組 小田 佑弥 先生**

① 信大附属松本中一三郷中一長峰中

② 何でも屋

③ 我が子と一緒に過ごすこと

④ 何でも屋にお任せあれ!

⑤ 毎日のルーティーンが大切です。

**3年B組 村澤 蔵哉 先生**

① 上田高等学校

② 数学(解析学)

③ 旅行、ドライブ

④ 一昨年度より教科担任、副担任として中学に関わってきました。本年度は中3の担任として、高校へ向けてのサポートをさせていただきます。

⑤ 自分で問いや課題を見つけて解決する力を身につけてほしいと思います。

**1年B組 大平 栄吉 先生**

① 大町市立仁科台中学校・千

### 編集後記

附属中学校の開校あたり創刊した「ユース版」が第11号を迎えました。お忙しい中、玉稿をお寄せくださいました関係皆様には、心より感謝を申し上げます。

また取材については、「鳩が丘新聞」班員(以下の皆様、◎班長、○編集長)にもご協力をいただきましたことに御礼を申し上げます。

3年生 ◎海沼さや(7) ○宮澤圭伊(2) 2年生 相澤優衣(3) 小林のどか(3) 栗林知也(3) 谷口真斗(3) 岡田明姫(5) 北澤知希(6) 佐藤穂輪(6) 宮坂莉央(7) 1年生 林穂乃香(6)

附属中・高校生を問わず、「鳩が丘新聞」の編集に興味ある方の入班をお待ちしています。(社会科・綿貫真由美夫生までお知らせください)

附属中・高校生を問わず、「鳩が丘新聞」の編集に興味ある方の入班をお待ちしています。(社会科・綿貫真由美夫生までお知らせください)